

2学年通信

Dreams come true

山形県立米沢興譲館高等学校

2学年通信 97号 通算 161号

2017. 1. 27 (金) 発行

冬・物語 I

横山

昨日も大雪で列車運行が不安定になりました。「今年は雪が無くていいですね！」なんて無邪気に笑っていた頃が懐かしいです。やはり、今もまだ「ここは雪国 ❶」でした。実は先週の日曜日に「BEGIN」のコンサートに行ってきたのです。高校生には馴染みの薄いバンドでしょうから紹介すると、まず「ビジン」ではなく「ビギン」と読みます（それ位はわかるZ!）。「始める」という意味の英語で、過去・過去分詞は「began・begun」と個性的に活用(?)するので覚えている人も多いことでしょう。BEGIN は沖縄県石垣島出身の3人の男性によるバンドで、3人は小学校の同級生だそうです。1990年に「恋しくて」という曲でデビューしました。社会人1年生で荒砥高校に勤務していた頃なので思い出深いものがあります。有名な曲としては「島人む宝」「涙そうそう」あと最近では、あのCMで浦ちゃん役の桐谷健太さんが歌った「海の声」は、作詞作曲が BEGIN と電通の篠原誠さんだそうです（電通も今をときめく企業ですね?）。実はあまり聴いたことないバンドだったのだけれど、南陽市に来るということで行ってきたのです。また会場が、一昨年完成した「あの南陽市文化会館」だったということもあります。初めて入ったのですが、木の香りがする素敵な会場でした。ちなみに観客は「ほとんど 1950's ~80's」と私のお仲間でした。もしかすると、2年生諸君の保護者の方もお出でだったかもしれませんね。さて、バンドのセンターにしてメインボーカルは「比嘉栄昇さん」なのですが、彼のMCはすごく上手い。私も「米興の語り部」として一定の番付を頂いているのだけれど、天と地ほどの差。その比嘉さんが「南陽は寒いですね。石垣島と比べると」とのこと。石垣島観光協会のHPを見たところ「1月は最高気温25℃、最低気温20℃と比較的寒い季節です。半袖短パンだけでなく、長いズボンやシャツも持参して来島して下さい」だって。同じ日本なの!?ですね。比嘉さんはこうも話しておられました。「石垣島は日中暑いので外へ出ない。夜は多くの人が酒場で飲む。飲んで踊ってその辺の道端で寝てしまう。そして車に足を轆かれてしまう」そうです。そして道路に「路上寝禁止」という看板もあるそう。日々「エルサの城」に住んでいる我々には「アナタの知らない世界」ですね。私は俄然、石垣島に興味が湧いてきました。那覇には何度か行っていますが、石垣島のある八重山諸島は未踏です。なので、ちょっと計画してみようと思うのです。実現したら「スキューバやってマ〜ス！」なんて写真を米興メールで送るので楽しみにして下さい。雪が降り・日々寒い・電車も止まる、そんな置賜に住んでいると「どうして私の祖先はココに定住したのかな？」と疑問に思うこともあります。おそらく石垣島も同様で、不便や不都合なこともたくさんあることでしょう。最近、BSフジでは「北の国から」を放送しています。あれを見ていると究極の「どうして？」です。黒板五郎家に電気が通ったのは、BEGIN がデビューした3年前のことですし、しかもそれは「風力発電」なので（「北の国から'87初恋」によると）。北海道も山形も長い冬がある分「得られるモノ」もあるわけで、それは石垣島も同じわけで。モノに溢れた都会の生活は、キラキラ輝いて魅力的だったけど、僕は疲れて「東京は卒業」したわけで。自ら離れた富良野に戻って生活しているわけで。そんな僕に、父さんは「自然から頂戴しろ。そして謙虚につつましく生きろ」と静かに語った。❷

冬・物語 II

先ほど（25日）17:50頃に「米興バス」が到着しました。この大雪で、米沢市内は大変なことになっています。私は軽自動車に乗っているのですが、それでも愛宕街道では車のすれ違いが厳しいほど道路は狭くなっています。ですから、この道路状況&ラッシュ時に「定時」でバスが来てくれることに驚くのです。今日も2年生を含む30名ほどが乗車してくれていますが、これは大変嬉しいことなのです。それは何故かというと「朝夕の米興バスは山交バスさんをお願いして運行して頂いている」からです。実は、正直言って採算の見込めない運行なのです。朝夕の一往復といえ人件費 & バス整備費 & 燃料費と、相当の経費がかかっていることは容易に想像がつかます。仮に、ある朝10名程度の乗車だった場合にその収入は3000円程度であり、到底利益は見込めません。ですから、ある意味「米興生へのサービス運行」のような状況なのです。行政や公的機関ならば、たとえ利益が見込めなくともそのようなサービスはあるでしょう。しかし企業はそうではありません。会社のため、株主のために利益を出さなければ存続できません。ですから、米興バスはいつ廃止になってもおかしくないと思います。と、ここまで読んで賢明な2年生諸君は理解したでしょう。「できるだけ米興バスを利用しよう!」ということなのです。今年は運行して頂きましたが、来年の保証はありません。数年後に諸君の兄弟姉妹が、十数年後には諸君の子供が米興に入学し、冬場通学の足としてバスが利用できるような環境を残してあげる。そのような視点も大事だと思うのです。以前通信で「大切にしたいお店（書店）で買いなさい」という話と同じです。保護者の方の送迎に比べれば、それはバスの方が不便です。ネットで買えば家に届けてくれるのに比べれば、お店に向いて買うのは不便です。便利な方がイイに決まっていますから「便利だから」を否定することはできません。それはその通りなのだけれど、私は「それでいい」と割り切れない、もっと過激に言うと「反逆したい気持ち」にすらなるのです(?)。携帯電話の発売は、これはエポックメイキングな出来事だったのだけれど、私はヤバさを感じてしばらく手を出しませんでした。「ちょっとコレ便利すぎない?」という怖さを感じて。もう少し遡れば、それはファミコン。今までゲームセンターで100円入れてやっていたゲームがやり放題なんてありえない。私は当時もゲーム機は、ファミコンからPS4まで1回もやったことはありません。今もスマホでゲームをしている人を見ると「何が楽しいの?」とか冷静な目で見てしまいます。正直言うと「もっと他にすることあるんじゃない?」とも思ったりします。でももう時効だから話すけれど、小学生の頃はゲーセンに入り浸っていた私です。でも、未だにスマホやゲームなど「便利なもの」や「無料」という売り文句に、それらは例えると「アナタのための私の誠意よ♥」を押しつけられているような気持ち悪さを感じるのです。誠意には、誰も正面切って否定も反論もできません。うん、何となく思考が整理されてきたような気がする。ここのところ考えていたのは、そう言った事象についてのことだったのです。それゆえ BEGIN の曲に、北の国からに、心を揺さぶられたのかもしれません。

今年の芥川賞は山下澄人さんの「しんせかい」です。そして、その作品は自身の「富良野塾」での塾生体験がベースになっているとお聞きしました。富良野塾とは、北の国からの脚本を書いた倉本聰さんが開いた私塾です。富良野塾については、倉本さんが「谷は眠っていた」という著書で語っておられます。当時（1988年）読んで感動した記憶が蘇ってきました。「しんせかい」を読んだ人はコチラもどうぞ。また今回の「私の放言」が心を掠めた人がいたなら「北の国からを全部観る」は無理としても(?)「谷は眠っていた」は読んでほしい。たぶん、家の書庫(カッコイイ!)にあると思うので今夜探してみるけれど、買って読んで後悔しないから買ってけろ。「今どき新品で書店に無いでしょ!」って。そんなとき「こそ」ア〇〇ン使うんです! (矛盾しているかな?) ❸

冬・物語 Ⅲ

1月26日(木)「知っておきたい税の事情」という演題で2年生の租税教室を開催しました。講師として、米沢税務署長の木崎寛之さんをお招きしました。木崎さんは東京生まれで大学卒業後は「東京国税局」に長年お努めされていたそうです。昨年7月、税務署長として初めて米沢に來られて、今年は初めての冬だそうです。「米沢は雪が多いですね」と話されていました。この事業は文部科学省の「主権者教育」の一環として行われています。2年生諸君は、昨年「選挙について」講話があったことを思い出すでしょう。いずれ世に出る生徒諸君に、政治や税など社会の仕組みを深く学んでもらい「意識の高い社会人になってほしい」という目的なのです。私の米興生活を思い返すと、社会人としての基礎知識を学ぶような機会は「1mmも無かった」ように思います。あの頃「諸君は、将来世の中に尽くすのが使命である。今は社会貢献がなくていい」という大方針があり、上杉祭への参加や3年生の興譲祭への出演は当然のようにダメでした。さらに私達は「男女交際禁止」という究極の禁止令もありました。入学式の翌日に学年主任M先生が話したのを今も鮮明に覚えています。「冗談だろう」と高を括った友人は、女の子と一緒にいるところを大沼デパートで目撃され、職員室でこっぴどく怒られたそうです。「シャレじゃなかった!」と私達は大いに怯えました。「基本的人権の侵害となる領域まで踏み込んだM先生は偉大だった」と、同じ立場になった今はそう思えるようになりました。2年生諸君も少しだけ大人になったことだし(同じ学年主任として)米興の恋愛について触れてみようかな。

米興での恋愛と「大学受験」は切っても切れない関係にあるのは明らかです。まず、ここ10年のデータを分析してみます。恋愛と大学受験可否の相関です。そのようなデータはあるのですが、それを赤裸々に語ると「ショック受けそう」なので、フィクションという名の「よくある事例」をお伝えします。これ以降を読むかどうかはアナタの判断にお任せです。

- ①□ 相手への依存傾向は、女子<男子 である場合が多い。女子は何だかんだいっても「自分を大切にする」ので、気持ちを乱さずにしっかり学習し大学受験でも栄冠を勝ち取る(傾向がある)。
- ②□ 男子は、相手にのめり込んでしまい「自分を見失いがち」である。何より相手のことを優先し人生のすべてを賭けていいと思ってしまう(傾向がある)
- ③□ よって、大学合格率は 男子<女子 となる。男子は不本意な進学、またはもう一回チャレンジ! することになり、卒業後は本意な進学を果たした女子との齟齬が生じる(傾向がある)。
- ④ 大学では日本全国、世界中から多くの若者が集まる。女子は「私は何て狭い世界にいたの」を実感して素敵な男子と新しい恋に走る。男子は未練がましく…(可哀そうなので止めた?)

米興生の恋愛についての「作り話」です。あまり気にしないで下さい。実は、このようなことを書く気持ちになったのは「この週末に2つの結婚式」があるからです。1組は10年前に卒業した米興生カップルです。熊坂先生が2人の担任だったそうで「結婚式でどんな祝辞をしようか」と楽しみにされていました。もう1組は8年前に卒業した2人です。その新郎は高校大学と野球を続けて現在は医師として働いています。新婦はフェンシングでインターハイに出場し、大学卒業後は外務省に勤務しています。この2人が米興時代から付き合っていたかどうかはわかりません。私が感動するのは、共に第1志望とする大学学部に合格し、自分の夢であった仕事に就き、結婚に至ったという事実です。それは「お互いが成長できるような恋愛を続けてきた」という証です。私は「お互いを高めることができる恋愛(や友人関係)」は歓迎します。しかし、どちらかが不幸になるような関係だとすれば止める決意も必要です。それも「相手への優しさの1つの形」だと思うからです。

難関大志望者セミナー「春の学校」 ～東大生と学ぶ～ (2次案内)

主催 山形県立酒田東高等学校

1. 目的

- (1) 現役東大生と交流することにより、“今の”大学の様子をじかに聞き、自分の目標設定を明確にする。そして、「地域・日本・世界を担う人材」となるように意識を高揚させ決意を強固なものにする。
- (2) キャリアデザインを行い、自分の高校生活を見直し、充実したものにする。
- (3) 各地から同じ目的をもった生徒が多数集まって学習することにより、お互い刺激し合い目標に向かって頑張ろうとする連帯感を生み出し切磋琢磨し合う集団を形成する。
- (4) 講義・ゼミを受講することにより、教科学習のポイントを理解し、今後の学習の筋道をつかむ。東大生の学習法を聞くことにより自分の今後の学習計画にいかす。

2. 期日 (詳細日程は企画書を参照してください)

平成29年3月19日(日)～3月20日(月)(1泊2日)

受付 3月19日9:30～10:00

開校式 3月19日10:00

閉校式 3月20日15:00

3. 場所

海麓園(山形県鶴岡市下川字東海林場 0235-76-3800)

4. 対象校及び対象者(下記高校の難関大志望の1年生および2年生)

(県内) 山形東、山形南、山形西、寒河江、米沢興譲館

長井、新庄北、鶴岡南、東桜学館

(新潟) 新潟、新潟南、新発田、長岡、高田、国際情報、村上中等教育

(秋田) 秋田、秋田南、大館鳳鳴、能代、横手

5. 個人負担

参加費 10,000円(宿泊費・昼食代・保険料・参加費他)

(受付時、集金しますのでよろしくお願いたします)

宿泊費7,000円 保険500円 参加費2,500円

6. 主な内容

- ① 東大生が「泥臭い高校生」を赤裸々に語る。
- ② あなたの「今の高校生活」を東大生と共に考える。
- ③ 将来のビジョンを現実にする

7. その他

2年生で興味のある人は横山まで申し出て下さい。